P-278
当院職員における喫煙の現状と課題

高知赤十字病院　健康管理センター
○山崎（やまざき）　麗子（れいこ）

【背景と目的】当院では２０１０年機能評価受審を機に敷地内全面禁煙に取り組んだ。同年たばこの値上げもあり、院長自らが禁煙に取り組むなど病院全体で士気が高まった。当センターでも積極的に禁煙支援を行い、職員専門の禁煙外来を開設した。しかし盛り上がりは一過性であり、最近では新たに禁煙する職員は少ない。今後の職場禁煙を推進するために喫煙の現状と課題を明らかにした。【方法】２０１０年から２０１６年までの全職員喫煙状況を分析。男女別、職種別喫煙率の経年変化を比較し、現状と課題について検討した。【結果】２０１０年と２０１６年の喫煙率の経年変化では、男性が２７．３％から２１．７％へ、女性が１０．９％から８．６％に低下しており、一見禁煙が進展したように見られた。しかし喫煙率の低下には喫煙者の少ない若年層の職員数増加が寄与しており、２０１０年に行動変容がなかった喫煙者の多くが現在も喫煙中であった。また特定の職種で喫煙率が高く、男性では放射線技師・事務・臨床工学技士、女性では看護助手・事務・調理員・臨床工学技師の喫煙率が、全国平均喫煙率（男性２９．７％、女性９．７％）を上回っていた。【考察】今回の結果から、一定の喫煙者は変わらず喫煙中であり、職種の偏りがあることが明らかとなった。今後の禁煙推進には新たなアプローチが必要であると考える。イノベーター理論による現代の喫煙者の価値観分類では、禁煙支援の効果がある喫煙者が存在する一方、文化レベルの社会変化がなければ禁煙に至らない喫煙者が存在すると言われている。病院職員の身近な存在である併設型健康管理センターの利点を生かし、喫煙者の価値観を把握することで、関心度に応じた支援を効果的に行っていきたいと考える。また個人の支援に留まらず、特定の職種へのアプローチについても検討する必要がある。

P-279
健診受診者の満足に影響を与える要因　－満足度調査から見えるもの－

諏訪赤十字病院　健診部　指導課
○清水（しみず）　操（みさお）、宮下　辰也

６年間の健診受診者の満足度調査結果を時系列に並べ、健診センターでの改善取り組みと比較し振り返りを行った。そこから受診者の満足度に影響を与えるものについて分析したので報告する。【結果】 H24年1月に新棟へ移転後、受け付け時間の変更や健康教室開設、進捗調整スタッフを2・3階へ配置し、接遇の平均4.4が4.6になった。H25年に本館との連絡通路の表示を変更後「看板や表示のわかりやすさ」が4.2から4.3になった。H26年にPET-CTのオプションを開始後「オプション検査等の種類」が4.0から4.1になった。H28年は進捗調整スタッフが待ち時間のロスが無いよう順番を臨機応変に対応し「検査待ち時間」が4.0から5.0になった。　コース別では、１泊ドックが「検査待ち時間」が低く「オプション検査」「次回利用したいか」で高かった。「医師の結果説明」「保健指導のわかりやすさ」が１泊ドック日帰りドックで評価が高かった。【考察】 移転により広くきれいな建物になったことが、平成24年以後の設備の評価を上げている。アメニティの質の向上は重要な要素である。新棟に移転して健診者数の増加への対応で、案内や待ち時間の工夫、接遇などの改善を行った。それが平成25年の良い評価に繋がったと言える。以後の評価が徐々に下がるのは、リピーターが多いことで、慣れによる鮮度の低下が要因と考えられる。「検査待ち時間」の評価には、進捗調整スタッフの存在が大きい。ただ、１泊ドックで「検査待ち時間」の評価が低い原因としては、本館への移動が必要であることが考えられる。本館での検査待ちの検討が必要である。【結語】 受診環境やアメニティの刷新は満足度を高める。サービスや接遇の改善により満足度は上昇する。健診コースにより満足度の違いがある。健診センター内ですべてが完結すると満足度は上昇する。

P-280
高槻市の健診事業紹介と当院の健康事業実績について

高槻赤十字病院　健診部
○木野村（きのむら）　亨（とおる）、堀内久美子、小石原好江

【はじめに】 大阪府高槻市の健診事業は、他の市町村に比べ、大変充実しております。特に、胃がん撲滅を目指し、中学生にピロリ菌検査を行っている事等の検診事業内容の紹介と当院の健診事業のかかわりについて、過去5年間のデータを報告する。【方法】高槻市役所　健康づくり推進課に過去5年間の人間ドック、特定健診、特定保健指導、がん検診検査等の対象者、受診者数、受診率、要精検者数、要精検率、精検受診者数、精検受診率、陽性反応的中率、がん発見数、がん発見率、病院毎の受診者数のデータをグラフ化する。【まとめ】 データをグラフ化し、高槻市の健診事業に対し、高槻赤十字病院がどのようにかかわり、役割を行ってきたかを見つめなおし、これからの高槻市の健診事業に深くかかわり、高槻市民の健康促進と維持を目指します。

P-281
看護学生の休養室利用状況から見える学生への健康管理のポイント

石巻赤十字病院　看護学校
○新田（にった）　聖美（きよみ）、鈴木笑美子

【1. はじめに】専修学校に在籍する看護学生は、3年間で99単位3,060時間を修得する必要がある。その間、健康を維持しながら学習しなければならない。休養室利用状況から、看護学生に必要な健康管理支援はどのようなものか考察したので報告する。【2. 研究方法】期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日　対象：看護学生107名（男子学生5名、女子学生102名）休養室利用状況をグラフ化し利用回数の大小を視覚化する休養室利用理由から学生の体調不良状況を把握する上記2つから必要な体調管理方法と注意を要する時期を抽出する【3. 結果】休養室利用状況から、各学年を合わせて9月に利用回数が上昇した。1年生に関しては入学当初にも利用回数が多かった。体調不良の内容としては、頭痛、吐き気、気分不快、めまいが上位を占めた。【4. 考察】休養室の利用理由から、月経前症候群と呼ばれる症状が多いことが分かった。高校を卒業してすぐに入学している学生が多いため、自己管理についての認識が低く自己の体調不良の原因がわからない可能性がある。そのため、体調不良時には月経の周期や体調不良との関係性、また睡眠との関係など質問することで意識させ、自己管理能力を高めていく必要がある。休養室利用状況では1年生は入学当初に利用率があがっていた。これは、看護学校という新しい環境に慣れずに体調不良という形で表れているためと考える。全学年で9月以降に利用率があがっていることは、今後、指導をする上で非常に重要なデータとなった。【5. 結論】学生の体調管理者指導は女性特有の症状について行う必要がある9月以降は体調不良者が増加しやすい傾向がある

P-282
学生指導用標準ツールを導入した取り組み

松山赤十字病院　看護部
○鈴木加奈子（すずきかなこ）、池上　千鶴

【はじめに】
Ａ病棟での成人看護学実習では、クリニカルパスを導入している周手術期患者を受け持っている。そのため、経過が早く、学生が意味づけできるような日々のアドバイスが、行えていないことが課題であった。そこで、平成２８年度はタイムリーな継続した指導が行えるよう、学生指導用標準ツールを作成・導入し、成果が得られたので報告する。
【方法】
学生１人につき独自に作成した学生指導用標準ツール１部を使用。１枚目には、病棟特有の処置や検査などの経験可能項目を記載した。２枚目には、クリニカルパスの患者達成目標を下に、学生の達成目標をチェック項目にして、日々の指導ポイントであることを示した。また、コメント欄も作成し自由に記入できるようにした。
倫理的配慮として、所属施設の看護研究倫理審査会で承認を得た。
【活用の実際と結果】
学生指導用標準ツールは学生１５人に使用した。１枚目の病棟における経験可能項目を記載したことで、学生ごとの経験の有無が把握でき、未経験な項目を経験できるよう促すことができた。２枚目では、患者の経過に合わせて、その日の目標が達成できるよう助言していくことで、タイムリーな指導につながった。更に、学生が達成できなかった項目に対しては、翌日に補足しながら指導することとし、学生が意味づけしながら展開できるようにした。コメント欄では、学生ができていたことや指導したこと、復習してくるよう伝えたことなどが記載されていた。これは、翌日の指導に活用できただけでなく、臨地実習指導者が不在時でも学生の進捗状況が把握でき、個別性のある指導に役立てることができた。また、学生指導用標準ツールを導入したことで、学生指導に当たるスタッフから、「助言しやすくなった」という声が聞かれることもあり、スタッフの指導方法の手引きとなることができた。

P-283
看護基礎教育におけるキャリア教育の一環としての就業支援

姫路赤十字病院　姫路赤十字看護専門学校
○藤田美佐子（ふじたみさこ）、山田　道代、神戸真由美、内海　尚美、藤元由起子、中島　啓子、松井　里美、名村かよみ、中林　朝香、小野　真弓、中植　宏美、柳　めぐみ

本校では、卒業生のほとんどが設置医療施設に就職しているため、施設と連携し、毎年３年生に就職説明会を開催して就職準備を始めている。しかし、数年前から、精神的ストレスで出勤できない、「希望部署ではない」「思ったような職場ではなかった」など、職場に適応できない卒業生が増え、平成27年は就職後１年未満の退職者が多かった。社会人になりきれない卒業生が増えていることに対し、看護基礎教育におけるキャリア教育への期待は大きくなっている。そこで、平成27年度からキャリア教育の一環として、外部講師による講座を取り入れた。特に３年生に対しては、社会人としての自覚が高まることを期待してキャリアデザイン講義とナースセンターの出張講義を実施している。実習態度評価には「社会人基礎力と行動指標」を取り入れ、社会人として必要な能力が身に付くよう指導に活用している。しかし、面接態度や社会性の低さについて指導を受けることが続いたため、平成28年度には、就職試験前に、社会人としてのマナーや面接を含む受験対策に重点を置いたキャリアデザイン講義とした。また、これまでの離職理由に鑑みて、就職希望施設のインターンシップへの参加を促した。参加した学生は、「実習に行かない病棟のことを知ることができた」「実習では分からなかった施設の状況を見ることができた」などと言っており、就職先を検討する上で参考になったのではないかと考えている。さらに、日々の講義や就職試験後の学生の反応から、自己表現力が弱いということも考えられたため、今年度の受験対策講座では、自己表現できる力と自信をつけるように模擬面接などを取り入れることとした。